

社会福祉学部

<平成30年 一般後期>

小論文（配点 200 点）

【出題意図】

高等学校卒業程度の基礎学力、論理的思考力、文章理解力、設問の趣旨に沿って適切に論述できる力を問う。

【解答例】

1

一つは、ゆるやかな時間である。これは、はっきりとした時刻をもたないが、誰にもはっきりと感じられる時の間をつくる時間である。もう一つは、特別な一瞬という時間である。これは、その時は気づかないけれど、後になって気づく、ありありとした記憶として戻ってくる時間のことである。(133字)

2

今の時代は、時間が細切りにされてしまっており、いかに効率よく、手際よく物事をこなしていくかという目の前のことに目を奪われてしまいがちである。仕事や家事をいつまでに終わらせようかということばかり考えてしまい、常に時計と睨めっこしながら手を動かしている。

さらには、「カrouシ」という言葉が、世界中で通用するような非人間的な労働環境を背景に、働くことへの充足感や生きがいを感じるどころか、自分の行為そのものさえも何を目的としているのか分からなくなってしまうという悲壮な現実がある。

このような日常、つまり、自分が生きている時間が、ないがしろにされていく、実感ににくい時代に私たちは生きていくのである。あいまいで、ゆるやかな平凡といってもいい1日の時間を、いかにして自分の生活において取り戻していくか、時間に管理されるのではなく、自分自身で充たされた時間をいかに手に入れるかといった態度が、今の私たちには求められている。

そして、これまでの人生の中での何気ない、あたり前のように過ぎさっていった、一瞬の光景がありありとした記憶として戻ってくること、何げない時間にふと気づくことで、それらの時間は記憶として残されていく、そのような特別な一瞬という時間も私たちがゆたかにしてきた時間である。

このような時間に対する感覚がもちにくい現代社会において、ふと立ちどまって振り返

ってみること、これまで、気づかなかったその時々時間を、ありありとした記憶として手に入れていくことが、いきいきとした感受性ゆたかな自分の人生を取り戻すことではないだろうか。(661字)